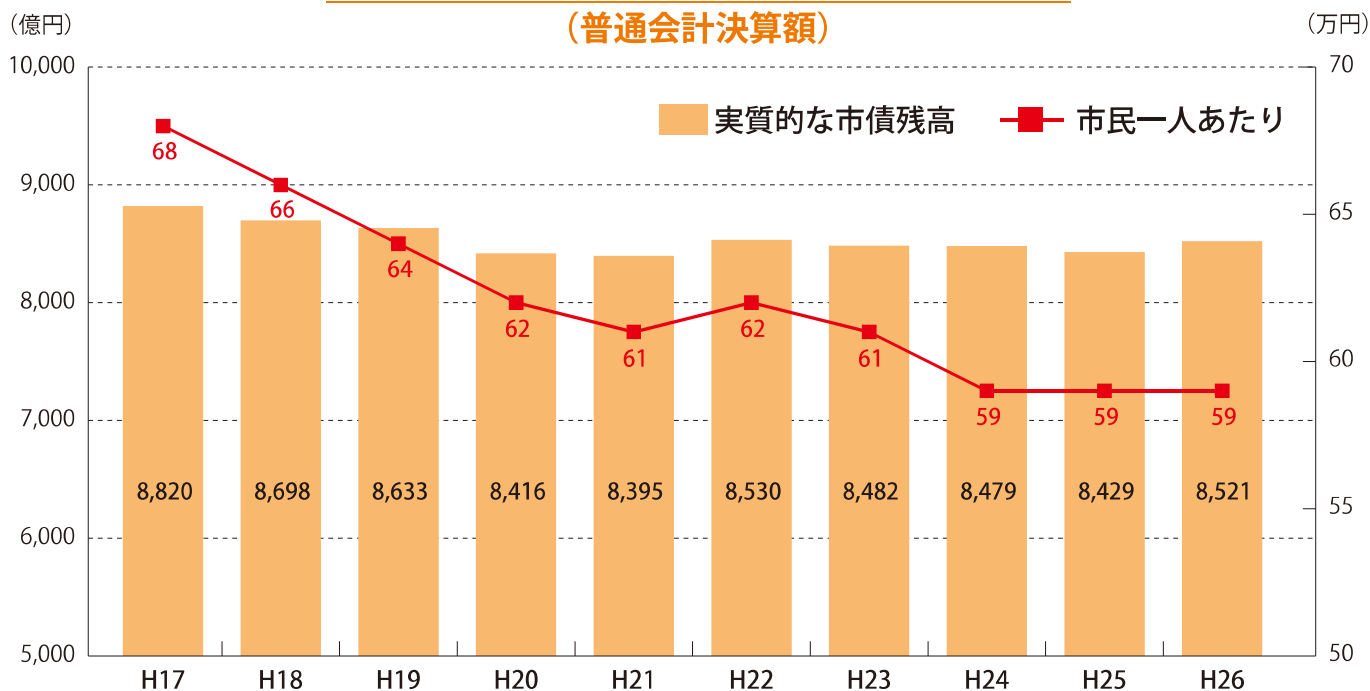


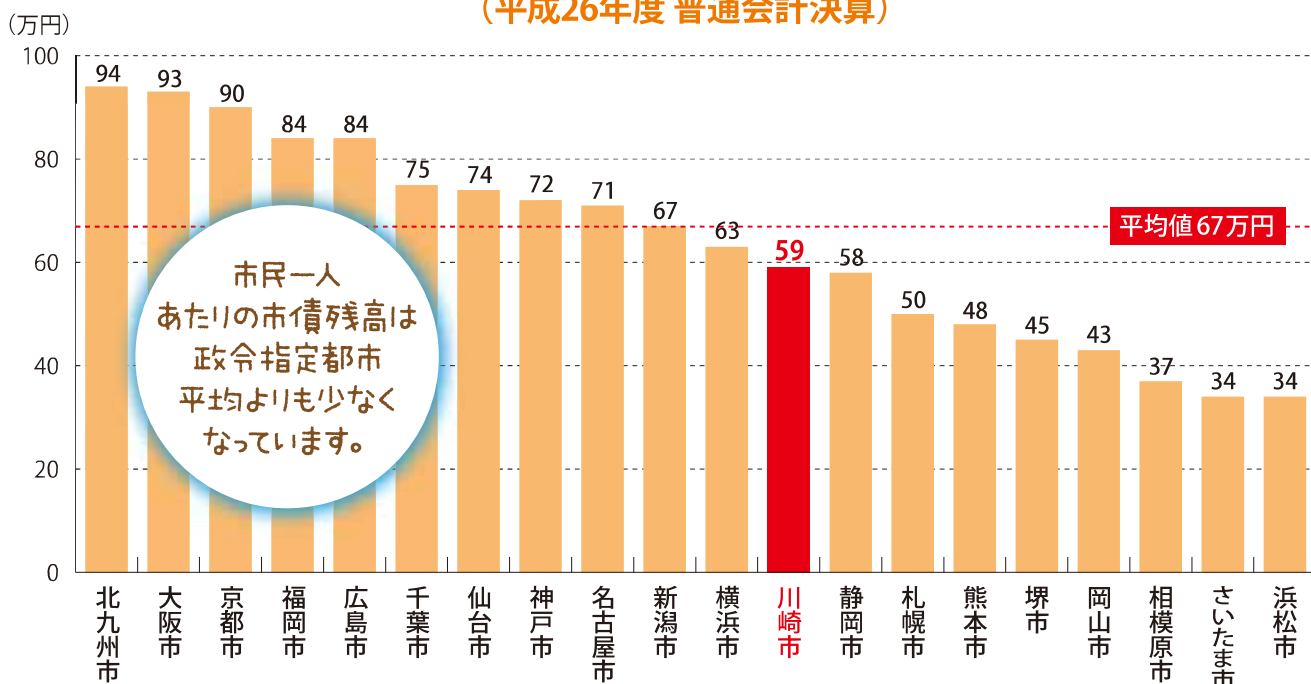
# 市の将来像を確認しながら 借入金のバランスを考えています。

## 市債の残高はどうなっているの？

実質的な市債残高と市民一人あたり残高の推移  
(普通会計決算額)



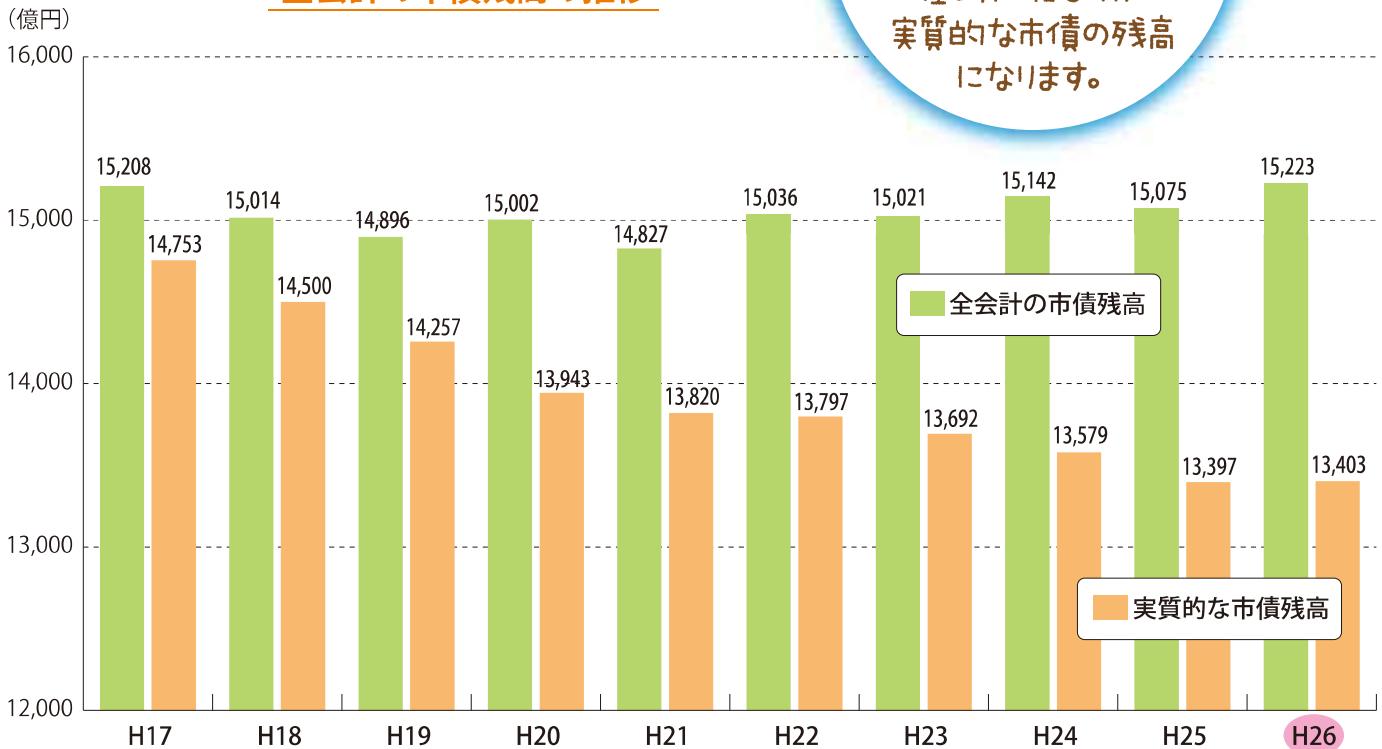
政令指定都市市民一人あたりの実質的な市債残高  
(平成26年度 普通会計決算)



# 全会計の「実質的な」市債残高は？

市債の償還  
(借金の返済)を  
計画的に行うために、  
積立てを行っています。  
そのため、積立分を  
差し引いたものが  
実質的な市債の残高  
になります。

## 全会計の市債残高の推移



実質的な市債残高は減少傾向にありますが、市債残高が増加すると、公債費が増加し義務的経費の増加にもつながってしまいます。次世代の市民に大きな負担にならないように、今後も将来への負担を明らかにして事業を行い、計画的に借入れをしていくことが大切です。

主に水道料金や  
下水道使用料などに  
より償還(返済)  
する市債

4,941 億円

平成26年度  
全会計市債残高  
(決算)  
1兆5,223億円

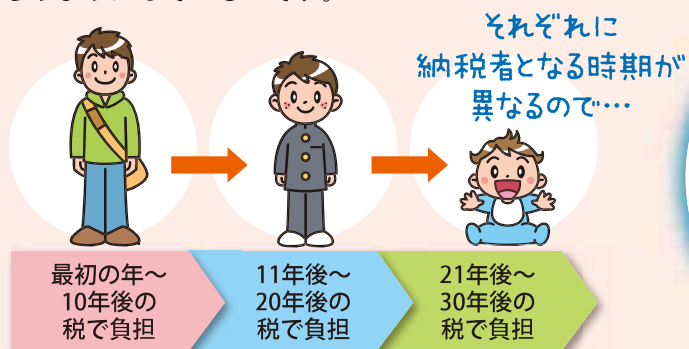
主に市税などにより  
償還(返済)する市債  
10,282 億円



コラム

## 市はなぜ市債の発行(借金)をするのでしょうか

学校などの公共施設を建てるために、その年度の予算だけを使った場合、施設は何年も使うのに、建築費用を負担するのは、その時の市民だけになってしまい不公平がうまれます。そのため、市債を発行して将来の市民にも平等に負担をしてもらうようにしているのです。



市債には、  
「現在」から「未来」  
それぞれの市民で  
負担を分かち合う効果  
があるんですね。

